

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「あいあい」 熊本新町校			
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 15日		～	令和7年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	8
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 15日		～	令和7年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 14日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育により、一人ひとりに合わせた療育を提供していること	アセスメントを取り、モニタリングを行い、日々の支援から本人に必要な支援を再確認し、さらに保護者様との会話から児童の成長の現状を見極めることで、本人に合った支援を調整し、提供している。 職員全員が日ごとに担当を交代しながら支援をすることで、本児の変化や成長をそれぞれが確認して、より良い支援を事業所全体で提供できる態勢を整えている。	更なる支援の質の向上のため、職員が集まって利用児の現状や得意不得意、必要な支援の案を話す時間を増やす。
2	不登校児支援の実施	学校での人間関係や学習の難しさから、登校することが難しくなってしまった児童に対して、苦手意識の軽減のために家族以外の大人と関わる練習を職員と行ったり、学習で難しさを感じている部分に対して復習を行ったりすることで、不登校の児童が学校に復帰できるきっかけ作りを行っている。	大人との個別による関わりに慣れた児童に対しては、複数の大人と同時に関わる機会を設け、さらに年齢の近い児童同士でのペア活動の機会を計画的に設定し、大人以外との関わる場を提供できるようにする。
3	保護者支援の実施	支援中はご家庭に合わせて、母子同伴または分離を選択できるようにし、ご家庭のニーズに合わせている。支援後には支援中の様子を含めたフィードバックを行い、最近の児童の様子をうかがうことで、お悩みを引き出し改善の方法や緩和する方法をともに考えている。 事業所でお話することが難しい場合には、メッセージアプリを用いて、いつでも相談ができる状態にしている。	保護者同士でのお悩みの共有やお話をする機会を設けることで、不安感の緩和や新たな糸口を見つける場を提供する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスを行っていない	児童とご家族との関係を第一とするため、送迎という短い時間でもお互いが考えを伝え合うことができる空間の確保を考えて、当事業所では送迎を行っていない。	送迎が難しい日が出てきた場合の対応策をご家庭と共に考えていくこと。利用曜日や時間帯の調整、通所支援に関する情報提供や相談対応の充実を行う。
2	大人数の集団で必要なスキルや経験が積みにくい	当事業所では、指導員と児童の1対1を中心に療育を提供し、一人一人の特性やベースに合わせて支援を行う事を重視しているため。	複数の大人と同時に関わる機会を設け、さらに年齢の近い児童同士でのペア活動の機会を計画的に設定するなど、大人以外との関わる場を提供できるようにする。また、地域資源の中で集団の場を体験できるような場所の情報、イベントの情報を紹介する。
3	療育時間の短さ	当事業所では、児童が集中力を保てる時間、または学校の授業に合わせた形でサービスの提供を行っているため。	不定期にはなるが、集団療育イベントの企画および実施の機会を増やしていくこと。 具体例としては、夏祭りイベント・お楽しみ会・クリスマス会に類する行事ごと。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「あいあい」 熊本新町校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 18

回収数 9

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7			1		営業に必要な人員数の確保を行い、支援においては可能な限り、一人の利用児に一人の職員がつくようにしています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7			1		活動プログラムが固定化されないように複数の職員が交代で支援を担当しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2		1	5		事業所として、ご利用者以外の方も参加できるイベントを行い、児童館などへ周知活動を行っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7			1		イベントとして、保護者会を行っています。また、日々の支援の振り返りにおいて、ご相談を受けた際には改善のためのご提案をさせていただくこともあります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	8					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	1				アセスメントを取らせていただき面談を行ったり、支援後の振り返りにおいてご相談内容に対して提案をさせていただいたりしています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3			5		保護者会のほか、ご利用者以外の方も参加可能なイベントを月1回の頻度で開催しております。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1				いつでも相談を受けることができるように事業所の公式LINEを作り、保護者様に周知とご登録をお願いしています。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6			2		年間計画に合わせて、月1回の頻度で避難訓練の実施をしています。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	8					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	7	1				ご利用者様に楽しく通所していただけるように、魅力的な支援を考え提供して参ります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	8				活動の1つ1つに達成感を持て、自信につながっている。安心して行ける場所が少なかったが、外出の切っ掛けができ感謝している。	プログラムごとの小さなできたを大切に、ご利用者様の自信につながる支援を今後も提供してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「あいあい」 熊本新町校				公表日	2026 年 2 月 14 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		通常時は、パーテーションで仕切り構造化したスペースを確保し、利用者の多い時間帯は2階スペースなども活用している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7		小集団やペア活動については職員同士で話し合っ て決定し、児童の情緒が乱れたときには別室に移 動してもらうなどの対処をしている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		支援室はそれぞれパーテーションで区切って構造化し、飛び出し防止のための柵を新しいものへ変更している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	毎朝朝礼後に清爽を行う時間を設けている。	業務の関係で頻度が減ってしまう場合がある。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個別の部屋を準備して、2階などもあり気持ち が崩れたときにクールダウンする場がある。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		朝礼などで周知している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		事業所評価を年1回実施している。	今後も継続して年1回実施する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		朝礼の時に意見の交換を行い、またその他の空いている時間でも意見の交換をしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	実施していない。	第3社による外部評価の検討	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		社内研修が実施されていて、職員に通知がされている。研修日が近くなってきたときには再度日時を伝えて参加を促している。		
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		HP上で支援プログラムの公表がされている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		会社独自のアセスメント、専門職用のアセスメントを行い、これをもとに個別支援計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		アセスメントをもとに職員で情報共有を行い、それぞれの意見や考えを集め、児童発達支援管理責任者が作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		支援計画を確認して支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		会社独自のアセスメントや参考書、専門職用のアセスメントをもとに確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		5領域を分けて個別支援計画を作成し、参考書なども用いて必要な項目を適切に設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		小集団やペア活動では、支援を行い職員が話し合っ てプログラムを作り、個別のプログラムにおいても意見の交換を行う場面がある。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		過去の支援記録を遡り、固定化しないように活動プログラムを調整している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		メインは個別支援だが、未就学児童は年齢は年齢に合わせた小集団活動の機会を作り、ペア活動も行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	主に小集団活動で役割分担を確認している。	話し合いができずに、一人の職員が考えた内容を周りに共有する場合もあるため、話し合いを行うようにする。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	公休の職員にも後日、情報共有を行い、全体で把握できるように努めている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		その日のうちに記録を記入するようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		6カ月に1回以上行うようにし、退所時にも実施している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	1	児発管が中心となって参加しているが、場合によっては指導員が参加している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		支援の中で自己決定の機会を設けている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児発管が中心となって参加しているが、場合によっては指導員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		地域のSSWと情報交換のしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	ご家庭を通して行事予定をうかがうことがあるが、学校と行う機会は少ない。	情報共有の機会を増やしていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		可能な限り、情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	5	現段階で実施なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	研修の機会があれば受けるようにしている。	支援時間と重なってしまうことが多いため、時間の調整をして参加できるようにしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	イベントを実施して、その情報をチラシを配布するなどしている。	外部の方の参加は少なく、あったとしても仮契約をいただいている方が多いため、継続した情報の発信を続ける。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	5	こども部会に参加をしている。	月によって参加できないこともある。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		フィードバック時に情報をお伝えしたり、メッセージアプリを使って情報の交換をしたりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		イベントとして実施している。	主に未就学児に対してのものが多いため、小学生以上の活動の参加も検討していく
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		重要事項説明書を用いて説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		アセスメントやモニタリングの際にお話をうかがっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		紙で内容を印刷し、保護者様と内容を確認した後、サインをいただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		フィードバック時に最近の様子をお伺いするようにして、相談に対して応じるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		保護者会の実施をしている。また、イベントではご兄弟の参加もできることを案内している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		電話のほか、メッセージアプリも使用して迅速に対応するように心がけている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		ブログは月2回以上、インスタグラムも高頻度で発信を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵付きのキャビネットへ保管して、個人情報that漏れないよう、ブログの写真などにも加工をしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		丁寧な対応を心掛け、必要であれば返答内容について職員内で話し合いを行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	イベントの告知は、地域の児童館や役所に対しても案内をしている。	外部の方の参加は少なく、あったとしても仮契約をいただいている方が多いため、継続した情報の発信を続ける。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各種マニュアルを策定し、重要事項説明書と共にご家族へは説明を行い、職員には研修などにより訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		策定を行い、避難訓練の実施をしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時に確認を行っている。また、イベントの際には、アレルギーの確認をしてお渡しをする。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	現状実施していない。	必要な児童が出た場合に実施していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		策定して、研修や訓練、そのほか必要な措置を講じるようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		契約時に説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		事業所内および社内で見直しと共有をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		研修の機会を設けて、適切な対応をしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		社内において身体拘束によるマニュアルを策定して、保護者様には身体拘束に関する同意書をいただいている。	